

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年6月29日

【会社名】 マーチャント・バンカーズ株式会社

【英訳名】 MBK Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 高崎 正年

【本店の所在の場所】 東京都港区西麻布三丁目3番1号

【電話番号】 (03)6434-5540(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員CFO 加藤 東司

【最寄りの連絡場所】 東京都港区西麻布三丁目3番1号

【電話番号】 (03)6434-5540(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員CFO 加藤 東司

【届出の対象とした募集(売出)有価証券の種類】 株式

【届出の対象とした募集(売出)金額】 その他の者に対する割当 330,668,800円

【安定操作に関する事項】 該当事項はありません。

【縦覧に供する場所】 マーチャント・バンカーズ株式会社 大阪支店
(大阪府八尾市本町六丁目11番8-701号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

当社は、2026年6月23日付で提出した有価証券届出書の記載事項のうち、2026年6月29日開催の取締役会で、処分予定先並びに一部の処分予定先に対する処分株式数を変更することを決定したため、また、記載事項の一部に誤りがあり、これを訂正するため、有価証券届出書の訂正届出書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 【証券情報】

第3 【第三者割当の場合の特記事項】

1 【割当予定先の状況】

3 【訂正箇所】

訂正箇所は___を付して表示しております。

(訂正前)

株式会社Ararik

(中略)

株式会社プロパティユース

a. 処分予定先の概要	名称	株式会社プロパティユース
	所在地	東京都新宿区新宿一丁目14番12号玉屋ビル3F
	代表者の役職・氏名	代表取締役 竹内 教奏
	事業の内容	不動産の売買、仲介、管理、賃貸並びに所有他
	資本金	9,000万円
	主たる出資者及びその出資比率	竹内教奏 100.0%
b. 当社と処分予定先との関係	出資関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	人事関係	該当事項はありません。
	資金関係	該当事項はありません。
	技術関係	該当事項はありません。

___ 山中央ファイナンス合同会社

(中略)

___ 中田 奈緒美

(中略)

___ 株式会社ファブリス

(中略)

___ 高橋 俊雄

(中略)

(注) 1. 「割当予定先の概要」欄、「当社と割当予定先との関係」欄は、別途時点を明記していない限り本届出書提出日現在におけるものであります。

2. 「主たる出資者及びその出資比率」は、出資比率10%未満の出資者は、記載を省略しております。

c. 処分しようとする株式の数

処分予定先の名称	処分株式数	
株式会社Ararik	普通株式	1,226,500株
中田 匡紀	普通株式	93,700株
齋藤 徳明	普通株式	46,800株
株式会社プロパティユース	普通株式	31,200株
山中央ファイナンス合同会社	普通株式	23,400株
中田 奈緒美	普通株式	23,400株
株式会社ファブリス	普通株式	15,600株
高橋 俊雄	普通株式	15,600株

d. 処分予定先の選定理由

(中略)

当社では、当初、自己資金により、処分予定先からTIGEREYE社株式を取得するスキームを想定しておりましたが、処分予定先と協議した結果、処分予定先がTIGEREYE社の持分法適用関連会社化による当社の企業価値向上を期待し、現金でなく当社株式を対価としたTIGEREYE社株式の譲渡を希望したこと、また、当社としてもM&Aの買収資金として活用することに備える目的で取得した自己株式を活用することにより効率的にTIGEREYE社株式を取得できることから、持分法適用関連会社化のスキームを変更いたしました。

また、別途、TIGEREYE社株式取得資金の調達方法について、金融機関からの借入についても検討いたしました。また、当社の財務体質に対する影響や金融機関との協議に要する時間も勘案し、自己株式を活用することといたしました。

(後略)

(訂正後)

株式会社Ararik

(中略)

__ 山中央ファイナンス合同会社

(中略)

__ 中田 奈緒美

(中略)

__ 株式会社ファブリス

(中略)

__ 高橋 俊雄

(中略)

(注) 1. 「処分予定先の概要」欄、「当社と処分予定先との間の関係」欄は、別途時点を明記していない限り本届出書提出日現在におけるものであります。

2. 「主たる出資者及びその出資比率」は、出資比率10%未満の出資者は、記載を省略しております。

c．処分しようとする株式の数

処分予定先の名称	処分株式数	
株式会社Ararik	普通株式	1,226,500株
中田 匡紀	普通株式	124,900株
齋藤 徳明	普通株式	46,800株
山央ファイナンス合同会社	普通株式	23,400株
中田 奈緒美	普通株式	23,400株
株式会社ファブリス	普通株式	15,600株
高橋 俊雄	普通株式	15,600株

d．処分予定先の選定理由

（中略）

当社では、当初、自己資金により、処分予定先からTIGEREYE社株式を取得するスキームを想定しておりましたが、処分予定先と協議した結果、処分予定先がTIGEREYE社の持分法適用関連会社化による当社の企業価値向上を期待し、現金でなく当社株式を対価としたTIGEREYE社株式の譲渡を希望したこと、また、当社としてもM&Aの買収資金として活用することに備える目的で取得した自己株式を活用することにより効率的にTIGEREYE社株式を取得できることから、持分法適用関連会社化のスキームを変更いたしました。

当社は、2026年6月26日に、処分予定先8名のうち株式会社プロパティユースより、2026年7月9日に予定していた当社へのTIGEREYE社株式20株の現物出資を辞退する旨の申し出を受けました。

そのため、当社では、残りの処分予定先7名と協議したうえで、2026年6月29日開催の臨時取締役会にて、処分予定先を7名に変更するとともに中田匡紀氏が当社に対して現物出資するTIGEREYE社株式を20株増加させた80株に変更し、それに伴い中田匡紀氏に処分する当社自己株式数を31,200株増加させた124,900株に変更する旨を決定いたしました。

なお、各処分予定先から現物出資を受けるTIGEREYE社株式の総数945株及び当社が処分する当社自己株式の総数1,476,200株は変更ありません。

また、別途、TIGEREYE社株式取得資金の調達方法について、金融機関からの借入についても検討いたしました。また、当社の財務体質に対する影響や金融機関との協議に要する時間も勘案し、自己株式を活用することといたしました。

（後略）

以 上